

I 研究総会

第1回 研究総会

開催日時	2010年6月5日（土）14:00～18:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎清風館3階301室
参加人数	24人

【研究総会の概要】

本プロジェクト第1回の研究総会は、桂紹隆センター長（龍谷大学文学部教授）のプロジェクトの趣旨説明にはじまり、各ユニットリーダーから本年度の研究計画が発表された。その後に行われた岡田至弘氏（龍谷大学理工学部教授）による報告「地図情報の活用事例 時空間－OpenTimeMap」では、アジア仏教歴史文化資料地図の作成が提案され、意見交換がなされた。以下はその概要である。

【報告と議論の概要】

近年、地図アーカイブ（電子国土画像、Google Map, Google Earth）など GIS システムが様々な分野で活用されている。しかし従来の活用とその公開にはアクセシビリティに問題がある。また地図が画像として扱われてこなかったという側面もある。そこでデジタルアーカイブを研究・教育に活用する方法の一環として平面地図に時間軸を取り入れた TimeMap が紹介された。

TimeMap はシドニー大学など複数機関によって開発された。これを利用することにより、Cultural Atlas あるいは Historical Atlas に時間軸を取り入れた地図をヴィジュアル化することが可能となる。会場では、実際に作成された韓国、中国、モンゴルの TimeMap も併せて紹介された。

しかし、シドニー大学の TimeMap にはアクセシビリティになお問題が残る。そこで SIMILE の TimeMap と Google Earth を利用したアジア仏教歴史文化資料地図の作成が提案された。現在進行中の混一疆理歴代国都之図プロジェクトも同様に時間軸とテキストデータを組み込んだものを構想しており、将来的には Web 公開を計画していることが報告された。

以上の岡田氏の報告に対し、次のような意見交換がなされた。まず、本プロジェクトにかかわるアジア仏教歴史文化資料地図を作成する場合に、写真やテキストなどの研究成果や第一次資料をどのように組み込めばよいのか、という質問がなされた。

これに対し岡田氏は、様々な資料を倉庫に組み込み、いかにグループ作業をしていくか、テキストを共有していくかが大事であり、表面的には仏教文化に関する歴史地図が出てくるような形が望ましく、龍谷大学の持っている古地図の活用も考えている、と述べた。

また、テキストを共有する必要があるとはどういう意味か、専門的な情報を誰がどう入力することができるのか、という質問に対しては、一般的なテキスト(年表など)と具体的なテキスト(旅行記など)の両方を考えている。入力については、入力者の専門性などを考慮して、資料の内容を吟味し整理して行う。これまでの **TimeMap** は特殊なものが多かったので、これからは **Web** 公開が大前提となる。その場合セキュリティが問題となる。簡単なエディターを **Web** で公開し、登録制で入力していくような形も考えられる、と述べた。

その他、中国であれば地方志などで、すでにデータベース化されているものもあるので、その活用も考えられる、という意見もあった。

この岡田氏の報告を契機として、本プロジェクトでは、龍谷大学古典籍デジタルアーカイブ研究センターの協力の下に、時空間情報処理システムによる文化資料アーカイブの研究を進めていく。



【文責】龍谷大学アジア仏教文化研究センター

第2回 研究総会

開催日時	2011年2月23日（火）14：00～17：00
開催場所	龍谷大学大宮学舎清風館3階301室
参加人数	23人

【研究総会の概要】

本プロジェクト第2回の研究総会は、長谷川岳史事務局長（龍谷大学経営学部教授）の開会挨拶にはじまり、桂紹隆センター長（龍谷大学文学部教授）から本年度プロジェクトの活動報告がなされた。引きつづいて、各ユニットリーダーからそれぞれのユニットの本年度の活動について報告があり、各報告に対して質疑応答がなされ、本年度の活動の成果と来年度以降の課題が明確にされた。そして最後に、木田知生副センター長（龍谷大学文学部教授）の閉会挨拶で締めくくられた。各報告の詳細については、研究報告書を参照いただきたい。

【文責】龍谷大学アジア仏教文化研究センター